

第2回 生物多様性神戸プラン推進委員会（現地確認） 議事録

1. 開催日時 平成28年11月15日（火） 9時30分～12時10分
2. 開催場所 キーナの森（西区押部谷町木津、北区山田町藍那）
3. 出席者 武田委員、橋本委員、島本委員、安井委員、長岡委員、横田委員
4. 議事内容

(1) キーナの森の整備に係る進捗状況について

●建設局公園部緑地課

【キーナの森の整備について説明】

●橋本委員

運営はどのような形態になるのか。

●建設局

検討中である。

●橋本委員

管理棟などは建てるのか。

●建設局

休憩所と便所を建てる予定にしている。

●橋本委員

展示園とあるが、何か。

●建設局

公園の奥までいなくてもエントランス付近で希少種等が見られるようにしようというもの。

●橋本委員

職員は常駐するのか。

●建設局

検討中だが、昼間は誰がいるようにできないかと考えている。

●橋本委員

ソフトが重要になると思うが、予算はついているのか。

●建設局

現在、要求しているところであるが、なかなか難しい状況である。

●橋本委員

いろいろな団体が入って方向性が違ったら、キーナの森の理念が維持できなくなる。チューニングする意味でも運営協議会は重要だと思われる。

そこには、共通の理念が必要で、それがないと機能を果たしきれない。

今はどのような形で参加してもらっているのか。

●建設局

活動希望者には、登録したうえで活動してもらい、月1回定例で行われる“もりかつ”（キ

一ナの森での保全活動)にも参加してもらい、情報共有を図ろうと考えている。

今は、定例活動“もりかつ”の中でミーティングを実施し、情報共有を行っている。

●橋本委員

隣の国営あいな里山公園との連携は。

●建設局

国営公園は田んぼや畑があるので、お互い土地の状況を活かして住み分けを図っていききたいと考えている。

●橋本委員

どう役割分担をしていくのか、興味深く見ている。

環境局としてはどのような役割を担うのか。

●環境局

環境教育、学習のフィールドとして活用していく予定。

●長岡委員

ボランティアはどれくらい活動しているのか。

●建設局

今、30名くらいが活動している。メールアドレスで登録してもらっているが、登録ベースで言えば、倍の60名くらいが登録している。

●橋本委員

竹林管理等、トライやるウィークを活用しているとのことだが、市民参加で管理を進めることは考えていないのか。

●建設局

市民参加での樹林管理等もやっていくつもりである。

●橋本委員

里山管理作業を職員研修として使えないか。庁内において生物多様性の主流化につながると思われる。

●橋本委員

ボランティアは、管理作業で機械を使用することは可能か。

●建設局

今は、機械作業は事務局のみが行っている。

●橋本委員

伐採樹木は持ち出ししていないのか。

●建設局

持ち出しはしていない。チップにしてという事も考えたが、非常に費用がかかる。

枯れ木や大径木の伐採等は業者で行っている。

●橋本委員

火を使うことは可能か。

●建設局

ボランティア等だけでは使えないが、事務局がいる定例の“もりかつ”では使えるように

したいと考えている。

●島本委員

地域活動もそうだが、やはり作業だけではなかなか人が集まらない。火を使うことで活動に食を組み入れると興味を示す人も多いのではないかと。

【主園路に沿って整備状況を確認】

●橋本委員

開園してからが勝負だと思う。ここで何ができるのかという事を伝える取り組みが必要。ここを拠点とするなら、外部の活動団体と連携して、人材育成も進めていく必要がある。一方では、活動団体も減っているのだから、環境局や教育委員会とも力を合わせて進めてほしい。

●島本委員

直営である程度進めていくという事で、協議会をどう作っていくかだと思う。やはり、活動団体に依存するのは難しい。学校や若い人をどう呼び込むかも課題。公園ということで、管理面でいろいろ縛りがあり、制度的に前に進めないことがいろいろあると思われるが、そこは柔軟に、場を活かした運営ができるように特色ある森づくりを行ってほしい。

●長岡委員

どうやって知ってもらうかが重要である。今、プログラムを提供しないと何もできない人が多い。ここで何ができるか、イメージを発信する必要がある。それと、やはり分かりやすい柱がある方が近づくやすい。こういった場所で何が楽しめるのかということが、一般の人にはイメージしにくい面がある。

●安井委員

一般の人は、こういった場所での遊び方を知らない。それと、ここにはマムシやダニなど危険な生きものもいるので、危機管理が必要だと思われる。職員が常駐するのかという話があったが、何か起こった場合責任を問われかねない。案内、救急車連絡、病院への移送、救急箱の設置など常駐職員による対応は必要だと思われる。

●横田委員

環境アセスのミティゲーション、それぞれの面開発で義務的に行っているが、うまくいかないところも見られた。こういった環境の整ったところで集約的に行えたら一定の効果があったのかもしれない。それと、環境局の環境教育の拠点施設として近くに環境未来館があるが、キーナの森をフィールドとして活用するような構想が当初からあれば、違った活用が出来たのかもしれない。

●武田委員

拠点施設という事であれば、市全体として情報等も集約し考えていく必要がある。ただ植えているだけではだめ。専門の職員を置いて、生物多様性保全に向けた管理をしていかなければならない。ビジターセンターは必要で、それを中心に運営しないと、ただ来てくださるだけでは難しい。公園としての予算要求ではなく、市全体の拠点施設であるという事で話を進めていかなければいけない。